

打ち水大作戦!!



7月28日 ● たくさん水をまきましょう!

港南 打ち水大作戦

7月28日、港南子ども中高生プラザ、こうなん保育園、港南健康福祉館、港南幼稚園、港南4丁目第3アパート自治会の方々、株式会社富士通パーソナルズ、LSIロジック株式会社の皆さんが協力し、港南地区打ち水大作戦が行われました。モトーンで渋く決めた園児のダンスも披露され、乳幼児たちもかわいい手でパチパチ拍手。マイナスイオンが心地よい会場でのかけ水は格別のおいしさでした。



張り切りすぎて足まで濡れちゃった!



何度気温が下がったかな?お勉強も



白黒のコスチューム、かっこいいね!

7月30日 ● 打ち水は効果てきめん!

芝浦 打ち水大作戦

この夏一番の暑さとなった7月30日に芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ前で芝浦打ち水大作戦が行われました。

号令とともに打ち水が開始されると、子どもたち、保護者を含め340名以上の方がペットボトルやじょうろで、周囲の地面に次々と水をまき、大はしゃぎ。散水車も加わり、辺り一面が涼しげな風景になると、36度だった気温は34度に。

子どもたちの大活躍でひとときの涼を満喫できたエコイベントでした。



地球を冷せー!



散水車も登場



やっぱり打ち水はひしゃくでしょ

8月5日 ● 涼しくなったね!

台場 打ち水大作戦

8月5日、台場児童館前で打ち水大作戦が行われました。

台場児童館、台場保育園、キッズアスク台場園、放課GO→こようの皆さん、台場高齢者在宅サービスセンター、老人クラブ レインボー友の会の方ほか多くの地域の方々が参加しました。

打ち水に関するクイズが行われ、子どもたちは打ち水をする前から元気いっぱい。ひしゃくの使い方も教わりました。

打ち水が始まると、みんな一斉にプールに駆け寄って打ち水を楽しんでいました。結果は、気温がマイナス2.2度ということで、見事涼しくなりました。

終わった後に配られたかき氷も大人気でした。



クイズの様子。みんな真剣です



たくさん水がまかれました



地域の方でひしゃくの使い方を教えてもらいます

緑のカーテン紹介

「緑のカーテン」が、芝浦港南地区の各施設で行われ、すくすくと成長しています。

芝浦アイランド児童高齢者交流プラザでは、2歳の女の子が中心になって毎日水やりをしていて、子どもたちと高齢者の方が一緒になって成長を楽しんでいるようです。港南健康福祉館では園芸クラブの方々が中心になって、お世話をしています。また、芝浦幼稚園とにじのはし幼稚園では、見事に大きなゴーヤができていました。

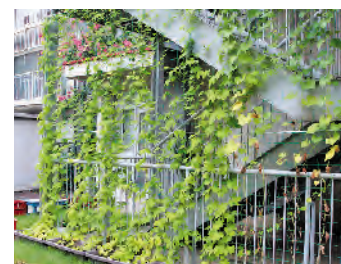
緑のカーテンの時期は終わってしまいますが、各施設を参考に、来年は皆様のご自宅でも挑戦してみてください!



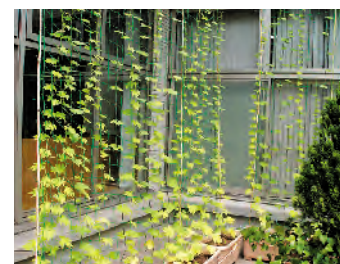
こうなん保育園



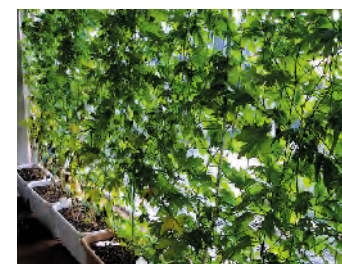
にじのはし幼稚園



芝浦幼稚園



芝浦港南地区総合支所台場分室



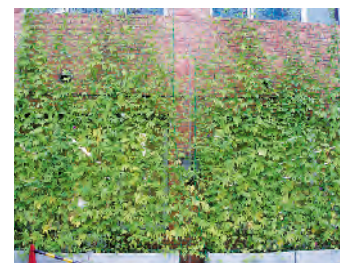
芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ



港南小学校



港区スポーツセンタープール棟



芝浦港南地区総合支所



港南健康福祉館

港陽小学校 鳥の島清掃活動

夏休みも残り数日になった8月28日、港陽小学校の子どもたちが、国土交通省東京港湾事務所等主催の『お台場海浜公園「鳥の島」再発見ツアー』に参加しました。鳥の島は、普段は人が立ち入ることがなく、自然豊かな島になっていますが、実はさまざまなゴミが漂着しているのです。プラスチックの容器やビニール袋などのゴミが多く、なかにはソファも。それらのゴミを一般の参加者の方と一緒に、子どもたちも熱心に拾いました。回収したゴミの量はなんと、510kg! 皆がんばりました。鳥の島からは第六台場に生息する鳥も見ることができ、お台場の自然を改めて感じるすばらしい機会になりました



連載コラム 島国日本、豊かさのヒントは自然界に、海に、深海にあるかもしれない

その昔、「黄金の国ジパング」と呼ばれた日本。現在、資源も少ない日本で、ものづくりや技術力で国力再生を図るしかないのに、この国の未来を託す子どもたちの理科力が劣っているとされています。

今年もお台場で、カキを使って海水の浄化実験が行われました。カキを入れたフラスコの中であつという間に透明になっていく海水に驚く子どもたち、自然界の不思議に興味を持てる取り組みが、もっと必要だと思います。南極ツアーや宇宙旅行も現実となっている現代に、異常気象にも影響を及ぼしている深層海流や深海探査の研究はどのくらい進んでいるのか、将来宇宙遊泳並みに未踏の深海を探索遊泳できる時代が来るのでしょうか。四方を海に囲まれ、浦島伝説もある日本、子どもたちに興味を持ってもらいたいものです。海には竜宮城のごとく、いまだ未発見の宝物となる何かがあるかもしれません。

べいあっぷ編集部 石井弘子

